新調の優勝旗を續って

第一回平地方軟式野球選手權大會

あす磐中、平商、第一、第三の四球場で

大塚運動具店主催第一回平地方軟式野球選手權大會は去る六日催す筈だつたが雨の爲延期愈々明廿日午前八時から平商、第一、第三、磐中の四球場で行はれるが第一回の組合せは左の如く優勝候補は遞友A、南町、春陽、イーグル、IMOBの五チームで1MOB對イーグルが最も興味ある接戰を豫想されて居る

（平　商）
遞友A組――磐　青
（平第一）
ツバメ――三丁目
（磐　中）
1MOB――イーグル
（磐中出身者）（各町混成）
（平第三）
發電所――春　陽
（平機關庫）
世界館不戰一勝

泉高萩間町村對抗野球

明日曜の決勝戰

植田青年團主催泉―高萩間町村對抗軟式野球大會は昨十八日午前八時から植田小學校庭に於て開催したが參加八チーム觀衆の熱狂裡に好ゲームを續出結局勿來、上遠野、植田AC、平潟（不戰一勝）の四チーム勝ち殘り續いて本十九日午後一時から抽籤の上準決勝を行ひ明二十日の日曜は最後の勝者により決勝戰が行はれるが近來の好大會として各方面から絕大なる人氣を集めてゐる

水高プールへ磐中選手の遠征

關東北大會漸く迫る

去る十三日磐炭との試合に好成績を收めた磐中水泳部では愈々來月十日水高プールで開かれる關東北中等學校大會への出場選手を左の如く決定毎日午前九時から中柴教諭指導の下に猛練習を開始する事になつた

（自由型）先崎正、北野正明、木村元吉、庄司猛夫、菅野正夫、澁谷春雄、佐藤文雄、酒井武、中津黍幸、志賀幸雄（ブレスト）國井晴郎、志賀貞介、赤塚粂松（バック）佐藤文雄、水野秀三郎

平營林署管內現行工事

昨年より二萬圓增

平營林署に於ける四月以降現行の工事は川前の斫伐事業を初め國有海岸砂防工事等計十件總額五萬二千百七十六圓八十錢、使用人夫延合計五萬餘人で前年同期の三萬三千餘圓に比すれば豫算の關係と例年より早く着手した關係から二萬圓近くの增加を示してゐる

泉村議戰訴願却下

泉村大字瀧尻吉田靜彌氏は豫て過般執行した同村會議員選擧の效力に關し縣參事會へ訴願を提起中であつたが昨十八日の定例參事會に於て却下と決定された

縣參事一行郡下出納檢查日割

二十六日平町解散

縣參事會の石城郡方面出納檢查日割は左の如くで甲班は川田、佐藤、太田、金子原、乙班は加藤、大越、大內、金澤、馬場で廿日四倉町海氣館集合である

△廿一日久ノ濱支所、四ツ倉署（甲）四ツ倉港修築事務所、夏井川改修事務所（乙）四ツ倉泊り△廿二日仲の作港修築事務所、回春園（甲）水產試驗所、植田署（乙）小名濱泊り△廿三日平署磐城中學校（甲）平土木監督所、磐城高女（乙）平泊り△廿四日平稅務出張所（甲）平支所（乙）平泊り、△廿六日散解

地質調査開始

高清水磐中敎諭

縣敎育會が五ヶ年計劃で行ふ事になつた縣下の地質調査は縣下を十七區域に分けて夫々調査を開始したが錦、扁內、小名濱校村田兩氏と共に任命された磐中高清水勇助敎諭は來る廿四日より平小川、新舞子の擔任全面積の五分一である八方里に亙る地域の調査を開始する事になつたと

年寄り小兒を通じ一人當り四十六圓餘

平町の年生產高調べ

平町役場調査昨年八月以降去月迄の諸生產物左の如く合計百三十萬七千五百八十二圓で昨年より九千五百九十七圓の減少で假に之れを生產に參加せざる全町四千百七十四戶二萬八千百人に割り當てると一戶平均二百九十二圓廿六錢一人當り四十六圓五十二錢で工產が最高を占め次がズツト下つて蠶種、水產、米の順である

種別	金額
米	三、三三六
麥	二、五五六
食用農產	二、六五〇
果實	一、九三三
蔬菜花卉	一六、九三三
綠肥作物	六三八
蠶種	六二、三五六
工產	一、一二六、五七四
畜產	四三、八三二
水產	一七、八六五

研農會總會

農試石城分場出身者よりなる研農會總會は來る二十一日午後一時より石城分場講堂に於て開催する

菜種好成績

平均三圓六十錢高

郡農會が今年度販賣方を斡旋した菜種は合計千八百五十叺（十六貫入）金額一萬六千五百二十六圓で一等一叺九圓十三錢、二等九圓三錢、三等八圓八十八錢、等外八圓六十八錢で昨年より平均三圓六十三錢高で頗る好成績であつた

收益稅不良

當局手を燒く

平稅務署管內旅館三四、料理店六八（平町旅館一七、料理屋三三、カフエー二〇其他花柳關係二六、計九十八）の營業收益納入成績は五十件金額僅か二百九十五圓で依然甚だしい不成績で當局では之れが整理に手を燒いてゐる

差押物件公賣

平稅務署では地租滯納差押物件三百圓人員二十名に對し二十二日から二十六日迄收益稅三十件に對し二十二日―入遠野、二十三日―上遠野、二十四日―赤井、五日―山田村、二十六日―田人村の日割で公賣を行ふと

。。。接客業者健診。。。　平署では二十八日午前九時から接客業者の健康診斷を行ふ

終始好成績裡にラヂオ体操終る

あす町長助役の閉會挨拶

去る一日から行つた平町主催のラヂオ体操の會は開始以來毎朝生徒は殆ど出場一般者も第一、第三兩校で約百五十名の好成績であつたが愈々明廿日は午前六時から最終の体操を行つた後第一青沼町長、第三酒井助役から夫々閉會の挨拶あつて幕を閉ぢると、尙第三校では廿一日から今月一ぱいは宿直訓導指導の下にオルガンで行ふと

旱害地免租

平稅調査を進む

平稅務署管內の旱害水田は小名濱、玉川の七十町歩を筆頭に總計二百十町歩で當局では夫々調査の上免租手續きを取る筈であると

藝者受難時代

はづされぬ中元の義理に　何やらを外す時期は來る

今年もあす一日でお盆月だ。夕餐後の涼みがてらに裏の田圃へ出ると、萬頃の稻田を距てた近在の杜蔭からは、盆の三日を跳躍するチャンガラ念佛の稽古の鉦太鼓が聞えて來る。白露冷たき秋は目の前に迫つた

×

スワン萬年筆のマークの樣な寧ろ怪奇な恰好から折角得意の變裝を看破られ乍らも法被股引に大きな火の用心を下げた踊り子こそは新田町のお茶つぴきに取つて蓋し最上の得意なのである、彼等が驚異の目を瞠る人波を泳ぎ乍ら櫓から櫓へと踊り廻る姿は、いとも朗かな欣躍そのものではあるが、その裏面には人知れぬ苦しみが綯ひ込まれてあるのである

×

不景氣の裡にお盆を迎へる――それは始めて心に染まぬギロチン（?）に上るに均しい、或はそれ以上彼らにとつて絕大の恐怖なのである。何亭、何家の御帳場へ、女中へ『御中元』と云ふ忌むべき傳統の大試練を經ねばならなかつたからである

×

例年その季が近づくと、世の遊び手と云はるる程の粹人も意馬の手綱を引つ締め、心猿の呼きにそつぽを向く。詰り自擔の輕減安全第一の敬遠主義をとるのである。と云ふてズロースと世間の義理は外されず、し方無しに中元大賣出しの呉服屋、荒物屋同樣向ふ見ず（轉）のバーゲンデーと云ふ事になり兼ねない

×

あさつては七月の朔日。近在の杜蔭からはヂャンガラの快い諧調が稻田の上を流れて來る――併し彼女らは憂欝である、新な財源を捻出すべく悲壯な筋肉勞働に從事せねばならぬ受難のシーズンが來たのである、彼女らには呪はれた盆前であるよ！。

驛待合に不審の男女

嬉しい道行と判明

昨十八日午後二時頃平驛待合室に居る擧動不審な男女あるを平署員が發見取調べると右は須賀川町本町二三六カフエーヤマト方コック吉田政信（二六）同町一一九爲治二女大森チカ子（二〇）で今春から戀仲となつたが女の親が結婚を許さぬので驅落して來たものと判明引取りに來た女の實父へ引渡したと

投檜

投書歡迎

お祭りの寄附。。。。

◇お祭りは結構である、祖先以來の舊慣古俗を傳統する上にも、晩餐後の一時間を世紀末の雰圍氣から遁れて初秋の夜の凉快を追ふそぞろ歩きの人にとつても嬉しい事には相違無いが一寸困るのは寄附金問題だ

◇實際僅かな子供の保護者會費すら滿足に納められぬ家庭にとつて之種のおつき合ひを迫られる事は少からぬ苦痛であつて往々取つて置きの野菜代を叩いて了ふ樣な事になる

◇而もそれが一度に切り詰めた無くてならぬ費用なら未だ忍ぶ事も出來るが其の幾部分かは祭典後の慰勞會費として酒肴に變る場合が少くないに至つては其間些か改善の要がありはせぬか

◇寄附は己むを得ざる最少限度に止まる事、而して幾らでも剩餘が出たら社殿堂宇の營繕費に積み置く事、斷じて飲食に費消する事を愼んで貰ひ度い、神佛をダシにするなんて世上之れ以上の罰當りはない（○○町被害腰辨生投）

買物を裝ふて手提金庫を盜む

通行人が難なく取押ふ

昨十八日午後十時頃平町田町五六雜貨商柳屋事平澤勝太郎氏方に買物に來た三十歲前後の男が家人の隙を窺つて店先に在つた現金七圓入の手提金庫を攫つて逃げ出したので大騷となり折良く通り合はせた新川町香具師藤太一郎（三二）と平驛機關手某兩氏が追跡協力漸く取押へたが右は當時住所不定無職磐崎村上湯長谷窃盗前科一犯髙野淸（三〇）で餘罪ある見込で目下嚴重取調中である

花魁田乃

豐間方面に潛伏？

昨報―前借八百圓を踏み倒して逃走した平町五色町遊廓住吉樓事檜山謙氏方抱娼妓田乃事瀨谷トワ（二八）は昨十八日抱え主よりの內報に依り逃走の際見送つたと云ふ馴染の神谷村向鎌田佐藤某を召喚取調べの結果豐間方面に潛伏中の形跡あるので同署で同方面捜索中である

葱頭品評會

農試分場研農會主催葱頭品評會は二十一日分場講堂に開催するが出品點數一人五個で午前八時から審査を執行正午賞品授與式を擧行し即賣すると

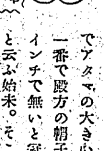
天理敎街頭講演

小名濱青年團主催の天理敎街頭講演の會は十八日午後七時から十一時迄小名濱町すま屋角に於

。。。。平驛競射大會　平驛主催カップ爭奪弓道大會は二十八、九の兩日驛構內矢場に於て開催、尙來月二十四日は濱三郡カップ爭奪戰を開くと

湯本マンドリン
オーケストラ
第三回演奏會
來二十日午後七時より
マルトモホールにて
（會員券十錢）
後援　磐城新聞社

艶罪黒白



◇新田町で若手の一流と云はれてる久本のぼたんは第二小學校時代のクラス切つての好成績今でもアタマの良い點では全平花柳界を斷然風靡してゐる◇道理でアタマの大きい事も一番で殿方の帽子も八インチで無いと冠れぬと云ふ始末。そこで彼女述懷すらく『あたしの頭に合ふのは炭鑛のオーさんと元居た銀行のヤーさんの帽子丈けよ』◇聞けば其らの連中の帽子と來たら普通の者が冠ると縱橫無しにグル〳〵廻つて尙ほ餘裕シャクシャクと云ふ物凄いもんだそうな◇段々お盆が近くなつた。一流處は別として少しく小便クサいのになると出入りの茶屋へ中元を贈るのが一つの惱み、はづされぬ義理に遂いヅロースをはづすなんて悲慘なのもあるとかや　○……○

。。。。水利議員改選。　好間村普通水利組合第二區（小町）議員改選は二十七日午前八時

學術映畫公開

いはき新報主催役場、署、郡醫師會後援の名古屋醫大齋藤外科撮影學術秘寶映畫會は二十日午後七時から平署會議堂で開かれるが映畫種目は實寫外傷と輸血、間接輸血法、先天性股關節脫臼、虫樣突起炎（盲腸炎）の畸形の種々、番外映畫新興作品『戀と十手と巾着切』學術映畫の解說は諸橋鐵彌博士及松村亭兩醫師が之に當ると

營林署員異動

平營林署では十八日左の如く署員の異動を發表した

森林主事　山田　冑　喜多方署へ
白河森林主事　小室　辰重　平營林署へ
猪苗代署　德永　匡　平營林署へ

林產拂下增加

平營林署本年度立木其の他製品の拂ひ下げ總額は立木約七萬圓木炭製材素材等斫伐製品は六萬餘圓で昨年度より五割方の增加を示し偏に地方事業の振展と木炭の昂騰を反映してゐる

渡邊濟氏

平町城山渡邊濟氏は豫て胃潰瘍を患ひ高久病院長其他の診療を受けて居たが療養叶はず昨十八日午後七時長逝した、享年六十歲

氏は曩年石城郡書記より双葉の上席、轉じ郡制廢止と共に閑地に就いた自治に通曉せる士であつた

葬儀は明二十日午後二時長橋町性源寺に於て執行すると

。。。。青沼町長出福。。。。　青沼町長は今十九日午前九時から縣會議事堂で開かれた縣下町村長支會長、郡農會長會議に出席した

。小火。　今十九日午前三時頃平町新川町佐藤理髮店が目下新築中の家屋から發火附近の者が發見直に消し止めたが其筋では何者かの惡戲と睨み犯人嚴探中である

。。家出。　東京市荏原區中延町戶越二二〇吉田ハナ（二六）は十日・若松市廿日町六二二瓶紋四郎（三〇）は十四日何れも家出したので夫々身寄りから平署に捜索方を願ひ出た

。鼠賊。　昨十八日早朝磐中一年三組敎室の硝子窓をこぢ開けて賊忍び入り表庭に作業中の鈴木武夫（一四）所有の上衣ポケットから現金一圓六十八錢在中の蟇口一個を窃取逃走した

。。侵入。。　當時住所不定無職茨城縣久慈郡生れ前科三犯小野瀨彌介（三九）が去月廿七日午前一時半玉川村大字野田字八合九五小松德松方に窃盜の目的で侵入した事件は昨十八日午前九時から平區に於て香西判事から即決懲役一年を言渡された

。ヅ洞。　平町鎌田町字下河原古物商崔聖出（三三）は去月十三日古銅七百匁を買取帳簿に記載せぬので平區香西判事から罰金三圓を云ひ渡さる

。正誤。　昨紙『乘客爭奪戰線異狀』の記事中加被害者の氏名は反對に付き正誤す

四倉通信

。。。徵兵受檢豫行。。。　大浦村在郷軍人分會では早川分會長が指導の下に十八、十九の兩日小學校で徵兵檢查の豫行準備を行つた

。。。貰ひ兒を虐待。。。　四倉町本町居住猪狩大助（四七）は昨十八日九歲になる貰ひ子を虐待中見るに見兼ねた附近の者が警察署に訴へ出たので署では直に當人を召喚嚴重說諭の上歸宅させたと

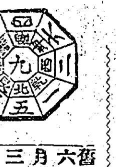
。。。大浦村に[illegible]。。。　大浦村上仁井田字北濱賀澤松太郎方に十八日午前十時頃家人の不在を見澄まし簞笥を引出し物色中附近の者に發見せられ贓品の自轉車を置去りに一物も得ず逃走四倉署に於て犯人嚴探中

。。。。避暑客引上げ。。。。　四倉海水浴場の昨十八日の人出は約八百人位で間借の約半數は引上げた

刀劍研磨
白鞘調製
刀劍ツカ卷
刀劍買入
研師　翠光齋
主　船生四郎
平町十五丁目二六
大町通り

平町慶弔錄

△出生
鷹匠町四草野村下神谷澤帶二四中根亥之秋氏二男英雄君
△死亡
杉平二三渡邊濟氏（六〇）
大工町二二齋藤三治君（一一）



舊六月三十日
日曜　戊午　佛滅　開　星宿
新八月二十日

諸判定應需
東京市本鄕區湯島四丁目五番地
高島易斷總本部　神誠館

▲一白の人　熱情にかられて進むに過ぐれば禍を招く日▲二黑の人　優秀なる氣運に會し大計畫も成るの勢あり▲三碧の人　山氣を起さず眞面目に事を處すべし病注意▲四綠の人　內外の同情は一身に集り萬事に便宜を得ん▲五黃の人　去就に愼重なれば家道益々治まるべき吉日▲六白の人　不利と察すれば强て進まぬが安全病難警戒▲七赤の人　爲る事成す事心の儘ならず苦惱を增すべし▲八白の人　氣運は平順なり物事に迷へば人に乘ぜらる▲九紫の人　落ち付きを見せて喜怒色に現はすべからず

父渡邊濟儀病氣の處藥石効なく昨十八日午後七時死去致候に付此度辱知諸君に謹告仕候也

追て葬儀は明二十日午後二時自宅出棺平町長橋町性源寺に於て執行仕候

昭和八年八月十九日
福島縣平町城山

男　渡邊　啓
親戚總代　渡邊兵治
　渡邊　昇
　宮崎　正
友人總代　青沼鋒太郎
　佐々木喜代治

夕刊

磐城新聞

八月二十一日發行

定價　一部金五錢　一ケ月金六拾五錢（郵税拾五錢）
廣告料　普通欄一行金六拾錢　特別欄一行金九拾錢（五號十二字詰一行　[illegible]）
編輯印刷發行人　[illegible]（磐城國石城郡平町十六番地）
發行所　磐城新聞合名會社
[illegible]（タイライワキ）電話五六四番

（日曜祭日翌日休刊）

小唄雜考

赤井村　荒　赳彦

（二）

それらの自然的、人爲的の人心に及ぼす影響又は藝術的價値等についてはしばらく措き、文化の進展とスピードの増大とは常に並行して行くものであり、我々は日に／＼その目まぐるしさの中に捲き込まれて行く事を意識して憂鬱ならざるを得ないのである

先頃本紙が『炭鑛小唄』を募集して、この小唄の群雄割據時代に一石を投じやうと企圖せられ、石城郡の主産業である炭鑛を小唄の形に依つて天下に呼びかけんとしたことは、この時流に副ふ適當な思ひつきであると思つた。その結果應募數百四十四とは、數の上からは確かに成功と言ふことが出來るがその作品成績に至つては決して『顧みて全幅の成功』ではなかつた—『豫期した歌謠』が集らなかつたのは論壇氏並に選後評者妻新氏と共に私も遺憾であつた

しかし私は、そうした企に新聞社の一時的の人氣取りとか、單に時流に阿る淺薄な考へでやつたのでは斷じてないと信ずるが故に『何が炭鑛小唄をして不成功に終らしめたか』を探究して見ることは新聞社自体の責任でもあり、應募者同志にも又その責の一端がある様な氣がするのである

で先、これが發表されたのは確かに六月の初旬であつたと記憶するが、之を見た讀者の悉くが『これはよい思ひつきだ』と考へたことは事實であつたらう。がそれと同時に、その條件の『地方炭鑛名讀み込み』を如何に取扱ふかについて等しく迷つたことも事實であつた

私自身もその時『こりや難しいぞ、骨折つて却つて作り榮えのしないものになりそうだ』『こんな特殊な條件があつてはよいものが集らないぞ』と考へた次第だつた

そしてこの條件がある爲めに『新聞社がこの小唄に依つて何を求めて居るのか！』がピンと來なかつた。即ち炭鑛の生活を端的に歌ふ單なる石城郡の炭鑛歌なのか、石城郡の炭鑛宣傳なのか、又は全國共通な炭鑛歌なのかが、どもりピンと來なかつた（これは作品當選發表と共に月曜論壇氏並に選拔評氏の言葉に依つて判明したがその時は判らなかつた）だからこの募集の意圖、主趣と言ふものが一切應募者に判然しなかつたそれが何と言つてもこの不成功の大きな因をなして居るといはれて仕方がない。

こうした催しをする時は主催者は必ずこの『ねらひ處』を明示することが何より大成功ではなからうか。それが決局優良作品の應募される所以であり、讀者に親切なやり方であらう。

新秋

古川　哲夫

惱ましい
蚊と戰ひながら
夏は暮した
が……
そのつぎに來る
もの淋しい秋は
私の周圍を散歩してゐる
その泣き笑ひの苦味は
私の心を暗がりに招ぐ。

寄贈書目

◇『一君萬民の理想』我が政治史上に大旋風を捲き起した五・一五事件、犬養首相暗殺されて一年有三ヶ月、被告の陳述によつて事件の全貌は白日下に暴露された。

本書は卷頭に陸軍側事件の全貌を活寫し、十一被告の陳述を網羅して其處に貫流せる思想の根源を尋ね、冠するに『一君萬民の理想』を題名としたもの、後藤、篠原、中島、八木、石關、金清、野村、西川、菅、吉原、坂本の十一被告の人物順に陳述を整理し、各被告の肖像、略歴を附してあるから其の一人一人の主義決意、抱負等隱なく看取する事が出來る

内容を見るに……政黨、財閥、特權階級の徹底的爆擊、牧野内府に對する鬱憤國際壓迫下の日本、皇道宣布と現狀打破の警鐘等、七十數項目に亘つて被告が斷頭臺を目指す國民への訣別の辭である。本書の出版は凡ゆる意味に於て極めて必要有益な企（定價一部拾五錢、東京市京橋區銀座西七丁目五番地振替東京七七二九二番夕刊帝國新聞社）

社會の今日

8月22日

△儒者佐藤一齋歿す（安政六）△韓國併合條約成る（明治四三）△北極探檢家アンドレー氏の死体三十三年目に氷中に發見さる（昭和五）△第三次臨時議會召集さる△江木千之氏逝く△ドイツ飛行家グロナウ大尉プリンスルーパート出發アラスカに向ふ（同七）

○

語ること盡きて歩きぬ星月夜　　樓

宵はやく月かくれたる峰くろみ、山河の瀨の高鳴り渡る　　木下利玄

講談

劍火無情

（98）　津屋義人作　菅野祐作畫

白河の鬪（八）

火事の濟んだ跡で、近所は稍ざはついて、九つ半過ぎても、未だ戸を閉てやうといふ家はなかつたが、町會所は開放して、二三の番人らしいのが、振舞の火事場酒を飲んでゐる。

勢ひ込んで飛んで來た民五郎は張合拔の態であつたが、

『オイ番人、今夜の捕物は何處へ送つた』

醉眼どんよりした二三人

『ヤア親分、今夜お宅は飛んだ事でしたな』

先刻お見舞には出ましたがもう一面の火でして、久藏さんまでお見舞申して引取りました』

其麼事は何うでも可いや能くも今夜此民五郎の家へ一言の斷りもなく、會所から手を入れやがつて、加之に火まで放けたナアイヤ手前逹に言つても仕方がねえが丸けた捕物の送り先を吐かせ、言はざア踏殺して了ふぞ』

『マ、親分、それはお考へ違ひです、會所の知つた事ちやございません。全く前橋の八州が勝手の手入で、今聞きますりやア會所へ一時引揚る所だつたが、此土地に置くと親分の一家から什麽仕返しがあるかも知れない。直白河へといふので本街道を鷄丸籠で送つたさうです、何うか私の方をお疑ひないやう願ひます』

『フム、それに違へねえから嘘を吐かしたら生かしちや置かねえぞ』

『何う致しまして、親分樣へ嘘なんか申しませうか、例もお世話になります者でげすもの……』

その言葉を耳にも止めず引返さうとする行手の方に提灯數十を振照した一行、足並揃へて飛んで來るのをそれと見た民五郎は思はずにつこりした。

忽ち其前に近づいた一行

『オ、民五郎、此處にか』

斯う言つたのは、宇都宮の元締り、黒磯の五平太であつた。其他重立つ乾兒三十人。

『あにき、火事は氏家と聞いて、若しや家の親分の預け人から訴しな事が起つたんちやねえかと、斯うしてみんな駈付けたんだ』

『火事は消えたか怪我人はなかつたか』

『あにき、何うして火事になつたんだ。大略は途中でも聞いてはきたが……』

極度に興奮してゐる民五郎は早口で答へた

『詳しい事は後に言はうが察しの通り預かり人は御用にされちやつた、おれが少しの留守の間に、家に火を放けやがつて、其ゴタスタ紛れに長柄の火消道具を振廻しやがつたんだからたまらない、流石の女豪傑も繩に懸んなすつたさうだ。おれ、五平太、お前に言ひ譯の爲め是から送りの途中で奪ひ還して見せるつもりだ若し失策つたら腹を切つて言ひ譯するのだ！』

此の時又もあまたの提灯、今度は二百三百の數が彼方から見えて來た。之は民五郎の乾兒等で一里半道と離れた土地にゐる者が集まつて土地の者と共に勢揃ひしたものであつた。そして親分の會所斬込みと聞き駈附けたのである

五平太はそれと見て

『民五郎能く言つた、手前の氣は知つてゐる。そんなら其同勢とおれの同勢とを一緒にして是から鷄丸籠を追詰めやうぢやねえか』

民五郎は首を振つて

『ウンニヤ可けねえ、此上哥兄の加勢を受けちや濟まねえ、此民五郎の男が立ねえ、乃公一人で屹と取還して見せる……ヤイ身内の奴等、みんな引取れ、燒跡の灰を掻いて板圍ひの用意をしろい』

言ひ出すと肯かぬ氣の民五郎であることを知つてゐるので五平太も是非なく手を空しくて

『ちやア仕方がねえ、姐御に會つて見舞を言はう

三百人の總代、民五郎身内の岡本の仙藏が其處へ出て

『黒磯の親分、能くマア早く來て下せえやした。兎も角燒跡に堀立て小屋はしてありやす、あの方へ來て下せえ、詳しいお話もしやせう』

彼是する間にもう民五郎の姿は闇に消えて了つた

五平太は仙藏に向つて

『民五郎は、ア、した氣の男だから到底承知はしねえが、さうかと言つてたつた一人やつて、ほうつて置いちやア兄弟分としての乃公の義理が濟まねえ。何にも言はずに乃公一人やつて呉んな。ソッと跡をつけて行つて萬一の時にや……』

『そんなら親分俺も一人』

『コレさ、それを言はせめえと思つて言ふんだ。何うか見ねね振してゐて呉んな奥州街道白河の關までは夜でも勝手は知つてらア』

吉田眼科病院

小名濱短歌會詠草（互選）

舟

6 ○次々に波のうねりをゆれ越ゑて釣する小舟こゝだ浮べり　　美崎一郎

1 ○月落ちてまつくら闇の舟かげに潮なりの音屢しつゞく　　池上富司

（千葉北條海岸にて）
○赤き帆にはらめる風のそとおちて鷹の島邊にヨツトたゆたふ　　薄葉ゆきじ

3 ○朝燒の潮のしぶきを浴びて入る舟迎ふ人のみごもれるらし　　小濱牧泉

3 ○うらぶれて港の唄に涙ぐむ人もあらなん船待ちの宿　　赤井嶽男

2 ○なげきつつ鳴くもあらんか數多く群れゐるかもめ舟近くして　　助川十九

2 ○燈臺がある船は潮をけつて進む三十度の傾斜　　吉田甫

自由題

1 ○風船玉を抱いてゆくやうな人生につかれて空しく廿三歳となる　　白木英尾

3 ○舟乘を業とし來る弟の渡河教練は兵みなのほん　　佐川和弘

2 ○濱傳ひ燒砂越えて疲れたり松の下道きりぎりす啼く　　美崎一郎

○濾過水は飲むによしなし氷嚢に入るる氷をふふみてありぬ　　助川十九

1 ○僕の好きな魚も澤山ゐる海がおいしそうにくずれおちる波　　池上富司

2 ○身に泌みて秋の風吹くこの朝げ夢の名殘のおくれ毛をかむ　　薄葉ゆきじ

3 ○おまいの眸がゆれてダリヤの花のむせつぽさだ　　白木英尾

5 ○鯛はふとなき出でぬ雨後の陽に百日紅の木肌かがやく　　赤井嶽男

3 ○みまかりてふたむかし經ぬおほちちが植えし芍藥今年も芽出づ　　佐川和弘

1 ○波ぎはに轍くろぐろと殘りゐて自動車の光遠く行くなり　　小濱牧泉

1 ○七月の空は蒼かりはかなくも春知らずしを歌人は逝きぬ　　吉田甫

1 ○遠く防波堤を歩いてゐて濱邊の人のどよめきがきこえる　　藤村伯二

坑夫募集
一、坑夫百名
身体强健にして十二分の勞働に耐ゆるもの
賃銀先山一日一圓五十錢内外
坑内は淺くして低溫、能率增進に伴ひ漸次增給す、此度は以前の如く炭層薄くなし。
一、採炭技術者　若干名
年齡四十才以下にして工手學校卒業程度の智能を有し身体意志共鞏固なるもの
右自信あるもの至急申込まるべし
赤井村小川鄕驛前
福島炭鑛

夜間診療
胃腸性病
内科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚病科
專門
松村胃腸性病科醫院
（平町南町電一〇七番）

貸切ノ御用命ハ
ゼヒ三井自動車部へ
電話六八五番
乘合は　好間…合戸…澤渡方面行

耳、鼻、咽喉科
氣管食道科　專門
平町南町（電一〇七番）
大和田醫院
大和田郡司
（自炊の便あり）

内臟外科一般
外科花柳病科
（入院隨意）
平町六丁目（橋際）
木村外科醫院
電話三〇九

婦人子供ニモ簡易ニ修得出來る新時代的家庭副業（農林省推奬）
手袋製造機械金八拾圓（無料敎授）
原料供給製品引取月賦販賣ノ方法アリ詳細乞御照會
坂本メリヤス工場
平町六丁目

小兒科・內科
特ニ乳幼兒ノ健康相談ニ應ズ。
平町。ねずみ坂
滯留隨意
渡邊醫院
電話一六一番

良品廉賣に勝る商略なし
磐城セメント特約代理店
金物問屋　和洋銅物
㊇釜屋商店
磐城國平町五丁目
電話九番　九九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は㊇の生命なり

平町田町
高久病院（電話五三一番）
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹勇雄
内科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科

吸入用酸素
度量衡
ハカリ　マス　モノサシ
計量器
体温器　寒暖計
◎秤ノ取緒・垂糸・修覆致シマス
關内藥局
電話四〇番

醫院開業
診療科目
○内臟外科　○整形外科　○腦外科　○皮膚科　○婦人外科　○性病科　○一般外科
醫學博士　諸橋鐵彌
平町新川町廿七（電話四六四）
入院室　手術室　完備
諸橋外科醫院

内外材　建築材　建具材
㊇阿部材木店
磐城國平町（公園下）
電話四九四番